

次の補聴支援システムにAuracast方式を選ぶべき理由

現在のアクセシビリティ要件に対応し、利用者がすでに持っている補聴機器を支援し、将来持ち込まれる機器に備えます。

なぜ今、聞こえのアクセシビリティを更新するのか

01 補聴支援技術は変化しています

ヒアリンググループは長年施設で使われてきました。Auracastは、1対多の最新Bluetooth放送音声を実現します。

02 アクセシビリティは任意ではありません

多くの国で公共施設には有効な補聴支援の提供が求められ、法的義務となる場合もあります。

03 コンプライアンス上のリスクを軽減

アクセシビリティの不足は、法務・財務・評判のリスクを生みます。使える補聴支援システムは実質的なアクセスの提供に役立ちます。

04 より多くの人の参加を支援

利用者に直接届く明瞭な音声は、騒音や残響の多い空間での会話理解を改善できます。

05 個人所有機器が運用コストを変えます

対応する補聴器やイヤホンを各自が使えるため、施設が清掃・充電・保管・保守する機器を減らせます。

06 誰も取り残さずに更新

Auracastはテレコイル、Bluetooth、施設貸出受信機と併用でき、多様な利用者を1つの最新システムで支援できます。

ヒアリンググループからAuracastへ

1937

ヒアリンググループ

最初の特許取得済み誘導ループ補聴システムは1930年代に登場しました。

1994 / 1998

Bluetooth

Bluetoothの開発は1994年にEricssonが始まり、1998年に業界標準となりました。

2022

Auracast

Bluetooth SIGはBluetooth LE Audioの一部としてAuracast Broadcast Audioを発表しました。

現在

業界での採用

補聴器、イヤホン、スマートフォン、施設音響の各メーカーが、新製品へのAuracast対応を進めています。

2.4 GHz帯の放送型補聴支援システムに関する正式規格が現在策定されています。

例として、英国のBS EN 60118-17プロジェクトは2.4 GHzデジタル放送型補聴支援システムを扱っています。規格と法的要件は地域により異なります。

Auracast方式の補聴支援システムはどのように機能するか



1つのシステムでほぼ全員を支援

利用者がすでに持っているもの	聴取方法	施設が提供するもの
Auracast対応補聴器	Auracastで直接受信	個人聴取経路には不要
Auracast対応イヤホン / ヘッドホン	Auracastで直接受信	個人聴取経路には不要
テレコイル / Tコイル対応補聴器	AuraCoil	ブリッジ受信機
Bluetooth補聴器 / イヤホン	Aura C	ブリッジ受信機
対応する補聴機器なし	施設受信機 + ヘッドホン	貸出セット

全員が新しい補聴器を持つまで待つ必要はありません。

今すぐ施設を更新し、現在のテレコイルおよびBluetooth利用者を支援しながら、Auracastの普及に合わせて直接接続できる利用者を増やせます。

より良い聞こえのアクセス。より良い経済性。

一般的な小・中規模施設

\$500–\$2,000

実用的なAuracast方式システムは、必要な範囲と受信機数に応じて、1台の送信機と少数の貸出機器で教会、教室、会議室などの小・中規模施設をカバーできる場合があります。

放送送信機 1台 + 少数の貸出機器 + 個人所有の補聴器・イヤホン

- 施設所有の受信機を削減
- 充電、清掃、管理、保管の負担を軽減
- 大規模な利用者への拡張が容易
- Auracastの普及に伴い個人機器での直接聴取が増加

大規模施設： 必要な場所へ送信範囲を追加することで同じ構成を拡張でき、個人機器を使う利用が増えるたびに施設受信機を1台ずつ用意する必要はありません。

過去30年ではなく、今後10年を見据えた設備へ

Auracast方式のシステムは、現在のアクセシビリティ要件に対応し、既存の補聴機器を支援し、長期的な機器管理を減らし、次世代の個人向け聴覚技術に備える助けとなります。